



ショートコメント

★★★★

Data 2022-49

カモン カモン (G' MON G' MON)

2021年/アメリカ映画

配給: ハピネットファントム・スタジオ/108分

2022 (令和4) 年4月23日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

監督・脚本: マイク・ミルズ
 出演: ホアキン・フェニックス
 ス/ウディ・ノーマン
 /ギャビー・ホフマン
 /スクート・マクネイ
 リー/モリー・ウェブ
 スター/ジャブーキ
 ー・ヤング=ホワイト

👁️👁️ みどころ

ド派手な役でも、しっとりした役でも“魅せる”ホアキン・フェニックスが、ラジオ・ジャーナリスト役で熱演！未来についてどう思う？子供たちにそんな質問を投げかけて収録・編集するドキュメンタリー番組は興味深い、それで喰っていけるの？

妹から預かった9歳の男の子は生意気盛りのうえ超デリケート。全編に流れる2人の会話はすべて微妙で、かみ合ってるような、かみ合っていないような・・・。理解し合えていないこと、だけは確かそうだが・・・。

しかし、それでも本作は“世界が絶賛！”それはなぜ？そもそも「G' MON G' MON」って一体ナニ？とにかく、前へ、前へ(カモン カモン)だが・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆本作の主人公である独身男ジョニー(ホアキン・フェニックス)の仕事は、ラジオ・ジャーナリスト。これは、大きなマイクと録音機器を持って、全米各地の子どもたちに、「未来についてどう思う？」、等とさまざまなインタビュー取材をする仕事だ。そのネタを元にラジオのドキュメンタリー番組を作っているそうだが、今時、そんな良質で地味な仕事で喰っていけるの？日本では、NHKですらアホバカ・バラエティーの影響を受けて、そんな良質な番組は減り続けているから、やっぱりアメリカの民主主義は本物・・・？

それはともかく、そんなジョニーが、それまで疎遠だった妹のヴィヴ(ギャビー・ホフマン)から、「しばらくの間、9歳の息子ジェシーを預かってほしい」と頼まれ、それを承諾したのは、なぜ？

◆子育ての経験もないのに、また仕事がメチャ忙しいのに、子供の世話などジョニーにできるの？しかも、9歳の男の子といえば誰でも生意気盛りだが、大人びた雰囲気を持ったジェシー(ウディ・ノーマン)は口が達者。したがって、「ああ言えば、こう言う」類の会話が增多するのは仕方ないが、時には“変化球”を投げてきたり、そうかと思うと真正面

から“豪速球”を試してくるから、この男の子は対処が難しい。そのうえ、感情豊か(?)だから、笑ったと思うとすぐに泣き出したり、とにかく扱いにくい。

これまで独身を謳歌し、何でも一人で自由に動けたのに、今日からは、仕事でもプライベート中もこんなガキと一緒に?そりゃ、やっつけられねえよ。私ならそう思って、ヴィヴの頼みを断るだろう。ところが、ジョニーはデトロイトでの仕事にすんなりそれを引き受けたからビックリ。ロサンゼルスでジェシーと合流した彼は、ニューヨークに戻って仕事。その後はニューオーリンズへも一緒に取材旅行に行くことに。108分の本作は、そんな奇妙な2人旅の姿をたつぷりと……。全編に流れる2人の会話はすべて微妙で、かみ合ってるような、かみ合っていないような……。理解し合えていないこと、だけは確かそうだが……。

◆ハリウッドを代表する名優ホアキン・フェニックスの代表作は、①第1にグラディエーター役のラッセル・クロウがアカデミー賞主演男優賞を受け、暴君(皇帝)役のホアキン・フェニックスがアカデミー賞助演男優賞にノミネートされた、『グラディエーター』(00年)②第2に、最凶の悪役アーサー役を怪演し、アカデミー賞主演男優賞を受けた『JOKER ジョーカー』(19年)、『シネマ46』20頁)の2本。他方、そんなド派手な役だけでなく、彼が地味な役柄も見事にこなすことは、③『ウォーク・ザ・ライン 君につづく道』(05年)、『シネマ9』91頁)や④『her 世界でひとつの彼女』(13年)、『シネマ33』269頁)を観ればわかる。

本作は、その地味な方のラインだ。同じ日に観た『とんび』(22年)では、主演した阿部寛の過剰気味の演技が目立っていたが、本作のホアキン・フェニックスには派手な演出は全くない。それにもかかわらず本作の評価は上々で、チラシには「圧倒的な多幸感!」「心揺さぶられる」「世界が絶賛!」等と書かれている。それは一体なぜ?

◆中国語の勉強を続けていると、「来」が「来る」という意味の他に、“積極性”を強調する意味で使われることがわかる。すると、「C' MON C' MON」(カモン カモン)という英語の意味は?

品の悪い英語の代表は「FUCK」(ファック)だが、「C' MON C' MON」はそれとは逆に「前へ、前へ」という、積極的で肯定的な意味らしい。しかし、本作の原題はなぜそんな「C' MON C' MON」に?また、近時の邦題は意識したものが多いが、わかりにくいことを覚悟のうえで、邦題をカタカナの「カモン カモン」にしたのはなぜ?

本作のラストには、ジェシーが「C' MON C' MON」と何度も繰り返すシークエンスが登場するので、そのことの意味をしっかりと確認したい。そして、ホアキン・フェニックスが『JOKER ジョーカー』の次に選んだ心温まる物語をじっくり楽しみたい。

2022(令和4)年4月27日記